

元気いっぱい、感動いっぱい、友達いっぱい！ 踏みだそう最初の一步「オープン・ザ・ドア！」

# Open the Door!

国立妙高青少年自然の家  
コミュニケーションマガジン

Vol.14

独立行政法人国立青少年教育振興機構  
国立妙高青少年自然の家  
コミュニケーションマガジン

# Open the Door!

最新情報は…

国立妙高青少年自然の家

検索



## 子供達の「気づきの場」

## 体験活動を大きな力に

- 特集1 関わり合う体験活動
- 特集2 源流探険
- 特集3 高校生顕彰制度



独立行政法人 国立青少年教育振興機構  
国立妙高青少年自然の家

〒949-2235 新潟県 妙高市大字関山 6323-2  
TEL 0255-82-4321 FAX 0255-82-4325  
<https://myoko.niye.go.jp/>





# 令

和元年九月、一枚の素晴らしい絵画が寄贈されました。キャンパスサイズが百号にもなるその作品は、上越市在住の画家、村山陽さんが描いたものです。「また、雪がくる」というタイトル通り、初冬の妙高山が描かれており、大勢の利用者の皆様にご覧いただけるように、食堂に展示しました。雄大なこの芸術作品は、これからずっと、見る人の「感じる力」を育んでくれると思っています。

「感じる力」について、東京芸術大学の日比野克彦教授は、「あらゆる感性を使い、様々なことを『感じる力』は、次のアクションを起こす、相手を思いやる、自分の気持ちを伝えるなどの力につながり、その人の生き方や人生を形成する上で重要なものになります。」と語っています。

私達が大切にしている「体験活動」は、この「感じる力」と同じように、人材育成に供する大きな力をもっていると思います。今回の絵画の寄贈をきっかけに、自然体験活動の中にある「芸術（アート）」を感じる瞬間を意識するようになりました。

さて、国立青少年教育振興機構では、第三期中期目標・計画期間（二〇一六～二〇二〇）の最終年度を迎えます。各施設の特徴を出し、取組の重点化を全職員で進めています。また、社会の変化に対

応し、今日的課題にも取り組んでいます。

今回の「オープン・ザ・ドア！」では三つの特集を組んでみました。

特集1 関わり合う体験活動

特集2 源流探険

特集3 高校生顕彰制度

特に、特集3は、次年度から全国展開する事業の試行の記録です。より充実した事業にするためにも、たくさんのご意見をお寄せいただきたいと思います。

最近読んだ本で、次の一節が目にとまりました。

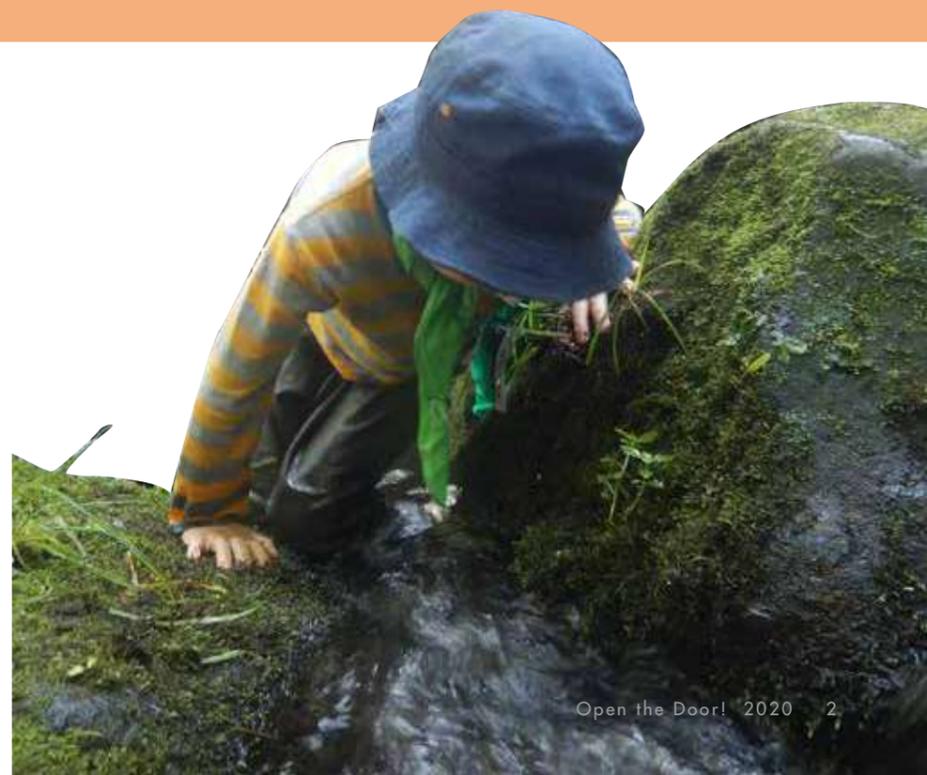
「子どもの心に扉があるとすれば、その取手は内側にしかついていない。子どもも心の扉を開くには、子ども自身がハツとする気づきの体験が最も大切であり、大人の役割は無理やり扉を開けさせることではなく、子ども自身にできるだけ多くの気づきの場を提供することです。」

妙高では、今日も大勢の子供達の声が響きわたっています。「今、どんな気持ちなのだろう」と寄り添いながら、子供達の「Open the Door!」の瞬間を見守りたいと思います。

※1 国大協広報誌「国立大学」十二頁

※2 宮口幸治「ケーキの切れない非行少年たち」(新潮新書)

# 子供達の「気づきの場」、体験活動を大きな力に。





関わり合う

# 体験活動

体験活動は、人と人、人と自然、人と社会などを結び付けてくれます。そして、その体験活動は、規範意識、コミュニケーション能力、自己肯定感、自立心、職業意識など「社会を生き抜く力」を育成します。

国立妙高青少年自然の家は、このような体験活動の重要性を発信すると共に体験活動の場を提供し、次代を担うたくましく心豊かな青少年を育成することを目的とした青少年教育施設です。

今年度は、青少年の年代に応じた取組として、①幼児とその親を対象とした「幼児キャンプ」、②小学生を対象とした「MYOKOチャレンジ」、そして③一般を対象とした「指導者養成」を実施しました。

それぞれの特色とともに、事業の様子をご紹介します。

ドキ ☆ ワク ぼんげんたい  
みよこうマニウ  
幼児キャンプ2019

草花あそび・野外炊事



森のみよこう大冒険



川のみよこう大冒険

3日目

CLEAR ☆

閉会式  
振り返り

源流探険

朝食・  
テント撤収



2日目

森あそび  
野外炊事 等

朝のつどい・朝食

源流探険



1日目

就寝(本館泊)

なかよしタイム

夕食・入浴

開会式

START!

「2019 幼児キャンプ夏くみよこう」  
「ドキ☆ワクワクぼんげんたい」は子供達  
の「自立心」と「協同性」の成長を目的  
とした2泊3日のキャンプです。妙高市  
教育委員会との協働運営により、園指導  
主事、他4名の保育士がスタッフとして  
参加しています。  
幼児は、3日間のキャンプで「森」と  
「川」を舞台とした大冒険に挑みます。  
16名の参加幼児は、それぞれの大冒険で、  
たくさん挑戦をし、「自分でしよう」「友  
達としよう」という思いを高めました。  
今年度は、幼児の「自立」と「協同」の



場をより多くしたいという思いから、親  
子別での活動としました。  
2日目の「森の妙高だいぼうけん」で  
は、昼食作りや草花遊び等の課題解決活  
動をクリアしながら、地図をもとにゴー  
ルを目指しました。子供達は、自分の思  
いを主張しながらも、友達と協力し、一  
歩一歩ゴールに近づいていきました。  
3日目の「川の妙高だいぼうけん」で  
は、倒木や岩等の障害物や身長よりも高  
い滝を越えていきます。一つ一つ乗り越  
えた時の達成感や自信の自信につなが  
り、その自信が更なる挑戦へとつながり  
ました。また、友達に「頑張れ」「滑り  
やすいから気を付けて」と、励ましの声  
をかける場面も見られました。  
3日間のキャンプを通し、保護者の皆  
様から「親の前では見せない姿を聞かせ  
てもらった」「すごく成長した」と言っ  
た感想を聞かせていただきました。また、  
3日間共に活動していた保育士からは、  
親が近くにいることで、幼児の自己決  
定や合意形成の場が増え、大きく成長し  
たという声もありました。  
大冒険をクリアした子供達は、みんな  
自信に満ちた笑顔で帰路につきました。



宿泊道具の準備や運搬を自分で行う、歩くルートや宿泊場所は自分達で決める等、一人一人が自立を意識して活動を進めていきました。

### 自立のステージ



出合いのステージで積み重ねてきた信頼を土台にして、協力してトレイルルートを行ったり、メガサップを操縦したりして、班の絆を深めていきました。

### 協力のステージ



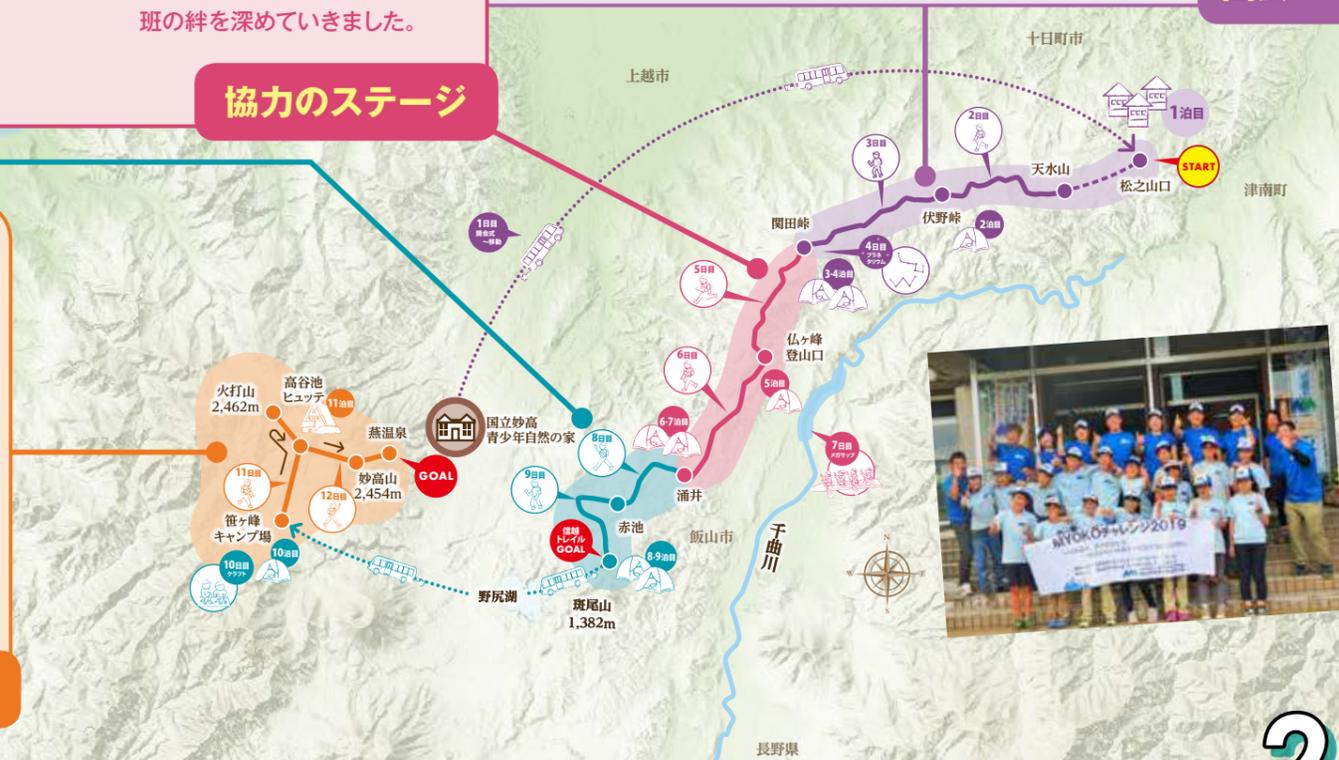
13日間一緒に行動する班のメンバーと野外炊事やテント立てなどを行い、少しずつお互いに理解を深めていきました。

### 出合いのステージ



火打山・妙高山の登山ではみんな自信をもって歩を進め、山頂での散策を楽しみました。ゴール後は、スタッフが子供達にバーベキューをふるまい、頑張りを称えました。

### 挑戦のステージ



# MYOKOチャレンジ

# 2019

MYOKOチャレンジは、子供達が13日間かけ、信越トレイル（全長約80km）と火打山・妙高山の縦走（約20km）を組み合わせた合計100kmの踏破を目指す統合型長期移動チャレンジキャンプです。自然への挑戦を通し、自分の力でやり抜くことに加え、一人一人が違う個性をもつ仲間として、お互いに助け合ったり励まし合ったりして、ゴールを目指しました。

このキャンプは、本キャンプの13日間に事前キャンプの2日間を加えた計15日間行います。15日間は5つのステージで構成され、それぞれで目指すことを子供達とスタッフが共有しながら進めていきます。

事前キャンプは「準備のステージ」として、本キャンプに向け必要な心構えや準備の仕方を学ぶこと、仲間との交流を大切にしながらいきました。本キャンプの最初は「出合いのステージ」です。安心してキャンプを進めていくことができるように、全体の雰囲気作りを大切にしました。「協力のステージ」では、様々な活動を通して、仲間と関わり合い、他者を認め合いながら活動に取り組む姿を目指しました。「自立のステージ」では、スタッフはできるだけ見守るようにし、子供達だけで活動に取り組んでいくことができるようにしました。最後の「挑戦のステージ」では、火打山・妙高山の縦走に挑戦しました。

日を重ねていくにつれ、子供達は仲間やスタッフと絆を深めていきました。次の活動を考えて動く、仲間の食事の用意をする、自立を感じさせる言葉が多く見られるようになっていきました。

5年目を迎えた今年度は、自立のステージを特に改善しました。自分達で歩くルートを決める、スタッフは離れて見守るといったこれまでの取組に加え、宿泊場所を子供達が決める、宿泊道具の荷造りを自分で背負って歩くなどの活動を設定しました。子供達は準備、出合い、協力のステージと積み上げてきた経験を生かし、自分達で主体的に活動を進めていくことができました。

100kmを歩ききったゴールでは、どの子も誇らしげな表情を浮かべていたのが印象に残っています。充実の15日間でした。

# White Season

		内容
1日目	AM	妙高の自然体験活動の概要
		アイスブレイクの意義・実習
		指導者としての心得
		子供達はどのように学んでいるか
PM	夜	子供達への接し方と指導の工夫
		妙高自然体験活動の安全管理
		妙高の自然と「遊ぶ・学ぶ」
2日目	AM	雪灯籠・スノーシアターづくり
	PM	雪灯籠観賞・スノーシアター・星空観察
2日目	AM	深雪探険
	PM	スノーシューハイク



関わり合うことで生じる葛藤や喜びなど、体験した人の豊かな人生の基盤になります。

国立妙高青少年自然の家では自然体験活動の場を多くの活動プログラムや主催事業を通じて提供しています。

6月のスキルアップ研修では、普段指導している分野の研修以外に、他分野の研修も行いました。自然体験の指導者は仲間作りを学び、仲間作りの指導者は自然体験を学ぶことで、子供達に指導する際に、よりよい関わり方や気付きについて学ぶことができました。

1月の研修では、妙高の自然と「遊ぶ・遊ぶ」(雪版)・雪灯籠・スノーシアター・星空観察・深雪体験・スノーシューハイクを行いました。

参加された方は、寒さも忘れ汗だくなりながら童心に返り研修を楽しんでいました。

どの研修も興味のあるところの部分参加が可能です。令和2年度も多くの方に参加していただき、子供達の豊かな体験活動に役立てていただきたいと思います。



# Green Season



		内容
1日目	AM	妙高の自然体験活動の概要
		指導者としての心得
		子供達への接し方と指導の工夫
		子供達はどのように学んでいるか
PM	夜	アイスブレイクの意義・実習
		妙高自然体験活動の安全管理
		妙高の自然と「遊ぶ・学ぶ」
2日目	AM	星空観察
	PM	仲間作り (アイスブレイク・妙高アドベンチャー)
	夜	源流探険
3日目	AM	キャンプファイヤー
		妙高アドベンチャー 幼小の森の活動

参加者は、指導員を目指している・現在別のフィールドで自然体験活動をしている・学校の先生・今後利用予定のある団体の引率者など多種多様な方々でした。様々な立場の方に参加していただいたため、それぞれの視点が違い多くの意見交換が行われました。

5月の研修では、妙高の自然と「遊ぶ・遊ぶ」・妙高アドベンチャー(アイスブレイクを含む)・源流探険・幼児の森の活動・キャンプファイヤー・星空観察を行いました。

参加者は、指導員を目指している・現在別のフィールドで自然体験活動をしている・学校の先生・今後利用予定のある団体の引率者など多種多様な方々でした。様々な立場の方に参加していただいたため、それぞれの視点が違い多くの意見交換が行われました。

「指導者養成研修」は、5月(グリーンシーズン向け)と1月(ホワイトシーズン向け)の年2回、国立妙高青少年自然の家をフィールドに指導員を目指す方・国立妙高青少年自然の家を指導技術を学びたい方・学校の先生などを対象に開催しました。

また、「指導者養成スキルアップ研修」は、6月に、より専門的な技術や知識の習得を目的として開催しています。

どの研修でも、初日に理論編として指導者としての心得・子供達への接し方・安全管理などを行っています。

# 2019 指導者養成研修

源流目指して川を歩く、  
冒険・発見にあふれた活動。  
仲間との絆を深める場に。

# 源流探険

「源流探険」は、国立妙高青少年自然の家を流れる小野沢川の源流を目指して歩く活動です。源流探険のコースは3コースあります。子供達の年齢や活動の目的に適したコースで活動することができるようになっています。

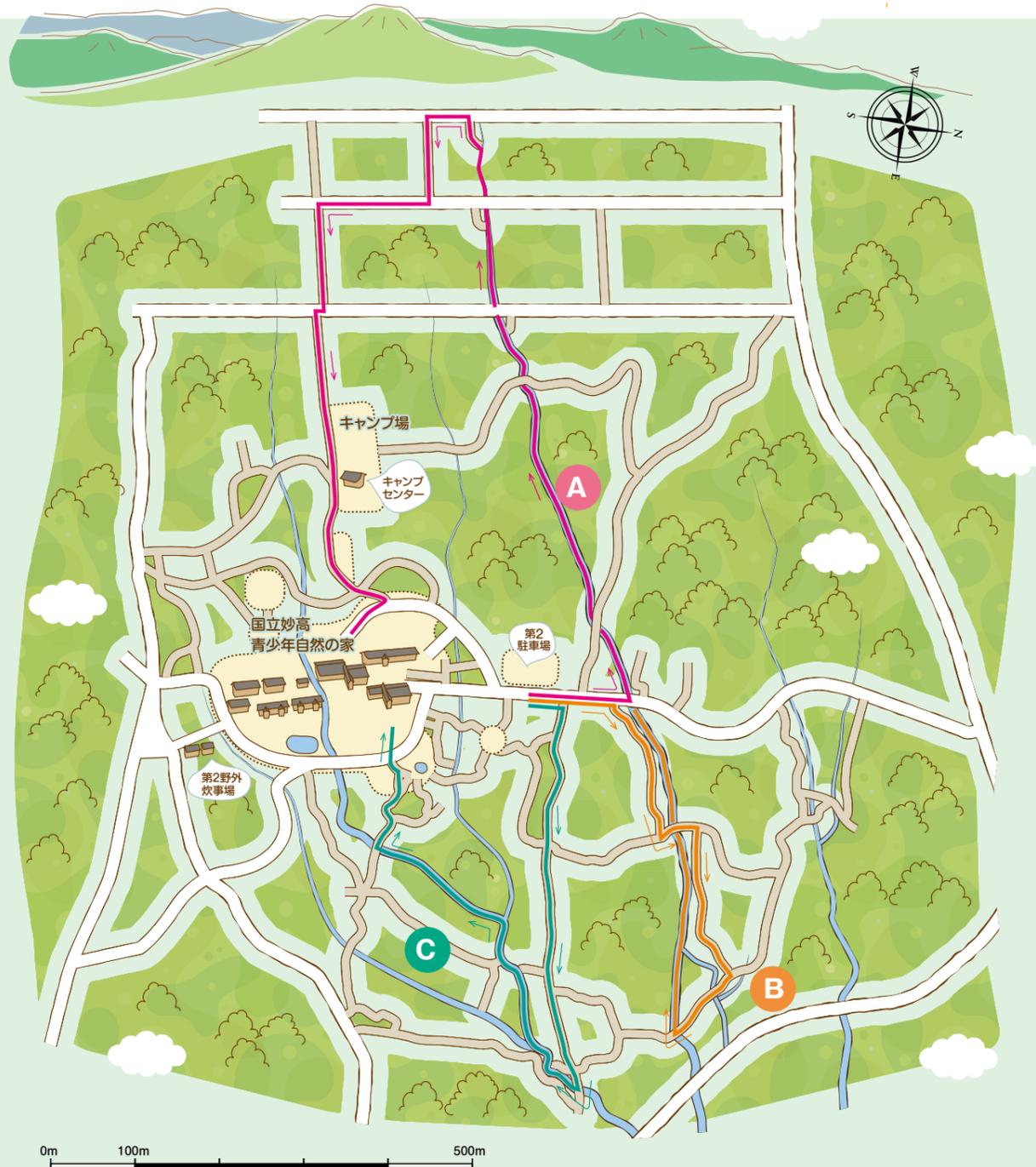
## 源流探険の魅力

五感を使って冷たい水を感じたり、川に住む生き物を観察したり、妙高山の火砕流の地層を観察したりと様々な自然の姿が子供達の知的好奇心をくすぐります。「川のはじまりはどうなっているの?」「夏でもどうして川の水は冷たいの?」「川はどつやどつやできるの?」「どうして妙高の木は幹が曲がっているの?」「何で木の幹が同じ方向

に曲がっているの?」など、探険すればするほど、もっと知りたいという子供達の疑問が膨らんでいきます。  
私達に豊かな恵みを与える川や森の素晴らしさに、直接触れ合いながら感じる事ができる「源流探険」は、幼児・小学生・中学生と多くの皆様に支持されている国立妙高青少年自然の家での人気活動プログラムです。

## 妙高山麓自然体験活動指導者会の皆さんとの連携協力

「源流探険」を子供達に体験させたいけれど、源流の魅力が伝えられる心配」「この季節ならではの魅力を知りたい」「川の生き物たちに出会いたい」というときは、妙高山麓自然体験活動指導者会の指導者の皆さんが、源流探険のコースを子供達と一緒に歩いて案内してくれます。学校や地域子ども会、ボーイスカウトなど各種団体の皆様のご希望に応じてコース選びのお手伝いも、当日の引率も引き受けられます。  
事前に申込や打合せもあるので、団体の引率の皆様と指導員がじっくり話し合うこともできます。より深い学びを求めて指導員のおすすすめコースを巡ってみてはいかがでしょうか。



### 源流 B コース 「森と水コース」

対象	幼児
所要時間	2~3時間
川の幅	狭い (河川上流の雰囲気)
学習できること	河川上流特有の石の大きさ・森林学習と関連・妙高火山火砕流露頭観察 など
冒険ポイント	川の流れを阻む大きな岩登り

### 源流 C コース 「川のひみつコース」

対象	小学生~
所要時間	3時間 (ショートコースは2時間)
川の幅	比較的広い
学習できること	川の蛇行・支流の合流や分岐・妙高火山火砕流露頭観察・水生昆虫調査

### 源流 A コース 「源流コース」

対象	幼児~中学生
所要時間	3 時間程度 (ショートコースは2時間)
川の幅	3つのコースの中で最も広い
学習できること	源流 (川) のはじまり・水生昆虫調査・支流の合流や分岐・森林学習との関連・妙高火山火砕流露頭観察 など
冒険ポイント	川の途中にある岩登り・滝登り

### 活動上の留意点

- ・川を歩く時は、両手を空けて、決して走りません。
- ・はだしやサンダルなどでは歩きません。
- ・スズメバチが近くで巣を作っているかもしれないので、黒い服装は避け、長袖・長ズボンを着用してください。
- ・引率者による指導は、事前踏査・下見・事前打合せの上、利用可能です。
- ・雨天時も活動は実施可能ですが、激しい風雷雨時は中止となる場合があります。
- ・源流探険当日の利用人数や水量によっては、希望するコースを利用できない場合があります。

### 準備する物

- 帽子  長袖  長ズボン
- 着替え (下着・服の上下・靴下)
- 長靴またはぬれてもいい運動靴
- ※アクアシューズは、足が冷えやすく、岩場を歩く際に切り傷や擦り傷がしやすいので、おすすめしません。
- 雨具  タオル  水筒
- リュック (両手が空くように)

### 自然の家でレンタルできるもの

- たも  バット (水生昆虫採集用)  双眼実体顕微鏡
- 温度計  虫かご

# 夢中になって遊び込む舞台

源流探険には、子供が「熱中する・夢中になる」活動がたくさんあります。「熱中する・夢中になる」姿こそ、子供が主体的に学ぶ姿だと考えます。  
子供達は、源流の自然を見つめ・友達と時間を共有し、発見や感動をともに味わい、人と自然と関わっていきます。



## 感じる

源流に一步足を踏み入ると、その水の冷たさに思わず「冷たい！」と叫ぶ子供達。どのくらい冷たいのかな？水温を伝えても幼児には冷たさは伝わりづらいもの。実際に、源流の中に手を30秒入れ、がまん比べ。途中で手を水から出して自分の頬に冷え切った手を当てる子供。真夏でも源流の水が冷たいことを肌で感じた子供達。同時に、自分の肌の温かさを感じる機会にもなります。



## 生き物とふれあう

「冷たい水の中に住むカエルや魚や虫たちは、冷たいところが好き。みんなのホッカホカの手で触られると、フライパンに乗せられたみたいに熱くて、苦しいんだよ。」と伝えます。探険中に虫やカエルを手で握っている友達がいると、「熱くて、カエルさん死んじゃうよ。かわいそうだよ。」と声を掛け合う姿も見られます。



## 学習と関連付けて

小学生の源流探険の活動では、「流れる水のはたらき」の学習として、源流の流れや川の両岸の様子を観察し、流れる水には、土地を侵食したり、石や土などを運搬したり堆積させたりするはたらきがあることや上流の川の様子などを、観察しながら学ぶことができます。

浸食された場所では地層観察による「大地のつくり」の学習やしみ出す水から「緑のダム」の学習などにも活用できます。

他にも水生生物の観察から環境学習を行うこともできます。

学習と関連付けた体験活動について、事前打合せで、自然の家スタッフと相談することもできます。ぜひ、本物の自然を活用しての学習にも取り組んでいただきたいと思います。



## 考えをつなげる

雪の重みに耐えた木。またぎ越したり、座ったり。子供達が登っても、しなやかに揺れるだけで、折れません。雪国の木のたくましさを感じることができます。

小学生は、「なぜ、幹が同じ方向、同じ高さで曲がっているのだろう」と考えることで、冬の豪雪に耐える木々のたくましさを感じることができます。

## 待ち時間も貴重な体験の場

狭い川を歩いているうちに、先頭と最後尾で時間差が出てしまうものです。コースの途中では、「サワグルミの木」がある広場や、「イワナの里」で時間調整をしながら、子供達と水生昆虫探しができます。また、サワグルミは複数本同時に近くで発芽し木になることが多く、子供達に「なかよしの木」と紹介すると、友達とずっと仲良しでいたい気持ちが高まり、サワグルミの木を愛おしくなでる姿もみられます。「なかよしの木」の枝のつき方から、植物のヒミツを考え探究する場にもなります。



このように、源流探険を通して、仲間や自然と関わることによって、「友達を思いやる気持ち」「チャレンジする勇氣」「自分で考えて動く決断力」「自然の現象に興味や愛着をもつ気持ち」などを培うことができます。源流Aコース、Bコース、Cコースそれぞれに魅力があります。国立妙高青少年自然の家では、指導者養成講座を例年開催しています。引率の参考になるような源流の魅力をお伝えすることができるとともに、妙高の自然を使った学びを子供達に広げていきたいと思います。



# Zero to One 高校生体験活動アワード in 妙高

## 自然体験コース

水生生物調査から考える  
自然体験



## 文化・歴史コース

食文化から考える地域の  
課題



## 社会体験コース

えちごトキめき鉄道新井  
駅前の「妙高彩生アート  
展」から考える社会体験



### 自ら学ぶ

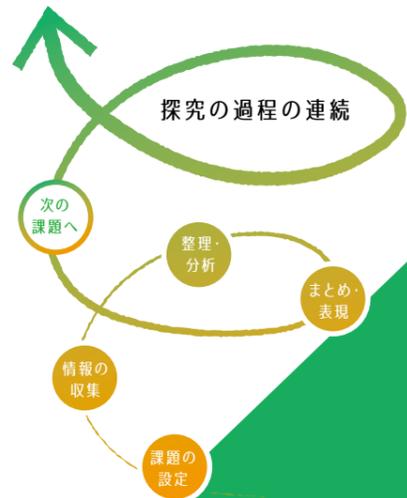
近年、社会状況が変わる中で、学校教育も「知識」を教える授業から子供達が「自ら学ぶ」授業へと変わってきています。平成30年に告示された新しい「高等学校学習指導要領」では、従来の「総合的な学習の時間」を「総合的な探究の時間」に変更し、生徒が自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、自ら問いを見いだし探究する力を育成するようになりました。

「Zero to One 高校生体験活動アワード in 妙高」は、「探究」に着目し、高校生が自身の居住する地域の課題を解決するために自ら考え活動し、その活動を通じて得た「学び」を審査し、顕彰する制度です。

### オリエンテーション・合宿

夏休み期間中の7月30日から8月1日の2泊3日、北は山形県から南は徳島県まで、様々な環境で生活している高校生18名が集まり、探究のノウハウを学ぶためのオリエンテーション・合宿を実施しました。

合宿では、①課題の設定、②情報の収集、③整理・分析、④まとめ・表現という4つの「探究のプロセス」を、体験型のフィールドワークを通じて学びました。フィールドワークでは、妙高市内で地域づくりの活動をしている方を講師に、川での自然体験や駅前商店街の町おこしイベント、そば文化の継承などを体験し、そこから見えてくる課題についてグループで議論し、その結果をまとめ、発表しました。また、最終日には、参加者それぞれが合宿終了後に地元で行う「実践活動」を計画し、合宿は終了しました。初対面同士だった参加者も次第に打ち解け、合宿の最後には「妙高最高」を合言葉に、充実した様子で帰路につきました。



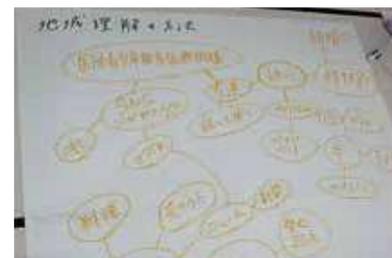
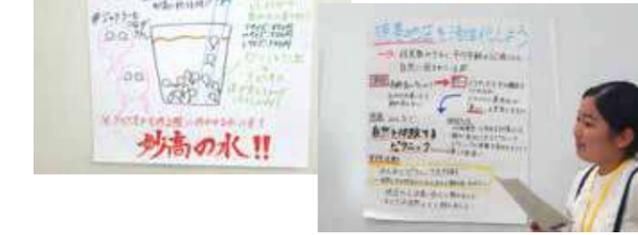
### 実践活動

合宿終了後、審査会にエントリーを希望する参加者は、地元で実践活動を実施しました。地域の大人達の協力を得るために計画を説明しアドバイスを受けながら、約3か月という短い期間で商店街の活性化や交流人口の増加等をテーマに活動を実施し、報告書を作成しました。

### 審査会

実践活動を行った7名が11月に再び妙高に集まり、地方審査会を実施しました。審査は報告書による書面審査と、7分間のプレゼンテーション審査により行われ、グループの部から1グループ、個人の部から2名を、1月に行われる全国審査会の代表として選出しました。慣れないプレゼンに戸惑いながらも、活動内容やそこから学んだことをそれぞれの個性で発表し、互いに刺激を受けていました。

審査会参加者のアンケートでは、「将来県外に出たいという気持ちが強かったが」地域の人の暖かさを感じ、将来帰ってくることを近隣の大学に進学することも視野に入れた。など、地域への愛着が強まった面も見られました。高校生の無限の可能性が感じられたこの顕彰制度、今後、より一層ブラッシュアップして実施する予定です。



今年度も多くの方から当自然の家で  
開催した事業に参加していただきました。  
その中から一部をご紹介します。

## 親子トレラン教室



日本を代表するトレイルランナー石川弘樹さんをお招きし、トレイルランを実施しました。世界で活躍する現役ランナーと一緒に走る貴重な体験ができました。

## 感謝祭



台風直後にもかかわらず多くの方からお越しいただき、活動プログラム体験会やクラフト体験を行いました。

## ボランティア育成プロジェクト



自然の家のボランティアが交流する機会を作ることで、相互のスキルアップを図りました。

## 学社共同参画セミナー



学校教育と社会教育が融合した体験活動のあり方を学びました。

## 教員免許状更新講習



体験活動の教育的意義や指導方法を理解し、教員としての資質・能力の向上を図りました。

## 本田亮さん講演会兼体験会



絵本作家の本田亮さんをお招きして、葉っぱアート体験会を実施しました。妙高の紅葉を利用して、世界に一つだけの作品を作りました。

## はね馬キャンプ



新潟県内の自然体験活動施設と連携しキャンプを実施しました。今回は新潟市のアグリパークで農業・食に注目して活動を行いました。

## 自然体験活動指導者 (NEALリーダー) 養成研修



自然の中で楽しく安全に活動するために求められる知識や技能を習得することができました。



# Information

## お知らせ

### 家族で自然の家に泊まろう 「妙高の自然に親しむ会」をご利用ください。



国立妙高青少年自然の家の利用は学校や青少年団体での利用が原則ですが、「妙高の自然に親しむ会」に入会することで、家族で利用することができます。

- 対象 青少年(29歳以下)がいる家族
- 入会手続き ホームページ上の「ご利用にあたっての注意事項」をご承諾のうえ、お電話またはWebで利用の予約をしてください。(利用日の6か月前から可能です。)  
その後「入会申込書」を自然の家に郵送かFAXで送付してください。

- 会費 無料
- ※利用にあたっては当施設の自然体験活動を行っていただくことが必須となります。また、活動場所は他団体・他家族と共有になる場合があります。  
自然と関わるきっかけとして、ご家族の皆様で、ぜひご利用ください。

#### ご意見・ご感想をお寄せください。

〒949-2235 新潟県妙高市大字関山6323-2  
TEL 0255-82-4321  
FAX 0255-82-4325  
E-mail myoko-so@niye.go.jp

#### ホームページもご覧ください。

<https://myoko.niye.go.jp/>


### 村山陽さんの絵が 食堂に飾られました!

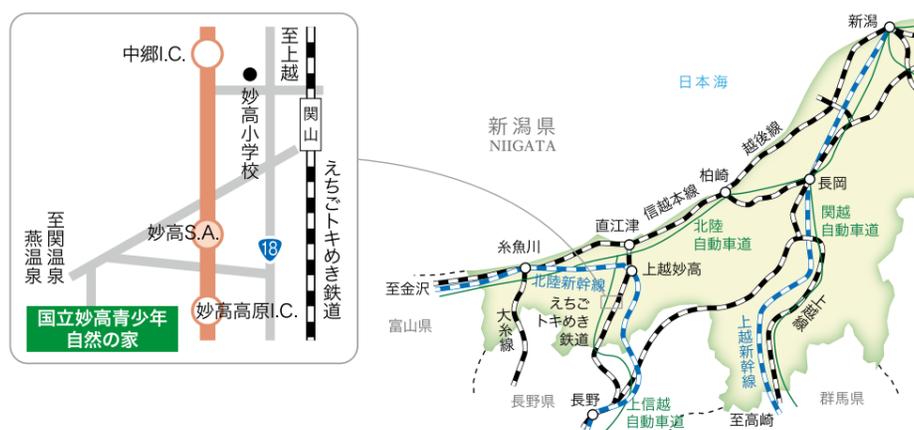


令和元年9月10日、村山陽先生が来所され、ご自身が描いた絵の贈呈式が行われました。今回寄贈いただいた作品「また、雪がくる」は、雄大な妙高山の雪景色を描いた100号の大作です。

食堂からは本物の妙高山とともに、村山先生が描かれた妙高山も同時にご覧いただくことができます。箸をとめてじっくりと眺めてみてはいかがでしょうか。

### Info 2 野外炊事で使用する包丁が 鋭く切れるようになりました!

10月に新潟県燕市のボランティアの皆さんが、野外炊事場で使っている包丁を研ぎに来てくださいました。力を入れなくてもスッと切れるほどの切れ味に仕上がっています。切れ味抜群の包丁で、野外炊事の際、より安全で快適に調理をすることができるようになりました。



### アクセス マップ

- 施設を利用するまでの流れ
- お電話による利用申し込み予約(受付開始時期は団体種別によって異なります。)
- 申し込み書類の提出(利用日の1か月前まで)
- 自然の家職員との事前打ち合わせ(利用日の1か月前までが目安)
- 利用当日

- 令和2年度 事業案内
- GREAT JOURNEY 2020
- 幼児キャンプ2020
- はね馬キャンプ
- 国立妙高青少年自然の家感謝祭
- 学社共同企画セミナー
- 教員免許状更新講習
- 妙高自然体験活動指導者養成研修
- 自然体験活動指導者(NEALリーダー)養成研修
- MYOKOボランティアキャンプ
- ボランティア育成プロジェクト
- 信越トレイルキャンプ
- 親子トレン教室
- トキ鉄でGO!
- マウンテンバイク体験会
- 親子でXmasケーキ作り
- Zero to One 高校生体験活動アワード in 妙高